

水稲水管理に関する緊急情報

令和元年5月30日
とっとり農業戦略課

渇水による用水不足が心配されるため、 水稲の「節水栽培」に取り組みましょう！

- 1 田植えが終わっていない地域では、可能な範囲で田植えを前倒ししましょう。
- 2 代かき時には入水量を減らした「浅水代かき」を行いましょ。
- 3 番水をするなど地域で協力しながら、節水栽培に取り組みましょ。
- 4 水を無駄にしないよう、水路や畦畔からの漏水防止に努めましょ。
- 5 少量のかん水では水の走りが悪くなるので、溝切りをして、水がほ場全体に行きわたるようにしましょ。
- 6 肥料の効いた葉色の濃い稲ほど用水不足に弱いため、穂肥は窒素過多にならないように注意しましょ。

※「節水栽培」とは、生育段階別の水の必要度に応じて最低必要量を使用し、用水を節減する方法です。

※「番水」とは、地域ごと、農家ごとで順番を決めて水田に水を引くことです。

水稲節水栽培の目安表

生育段階	時期の目安 (コシヒカリの場合)	用水の必要度	土壌水分の限度
田植期	6月1日	◎	田植直後は深水管理
活着期	6月5日まで	◎	活着後～中干しまでは浅水管理
有効分けつ期 (中干し期)	7月1日まで (7月2～10日)	△ (一)	黒乾きまで
無効分けつ期	7月10日まで	▲	白乾きまで
幼穂形成期	7月17日	◎	黒湿りまで (飽和状態を保つ)
穂ばらみ期	7月28日	◎	
出穂開花期	8月7日	◎	
登熟前期	8月27日まで	○	
収穫前	9月11日 (落水日)	△	黒乾きまで

注1) 用水の必要度 ◎：大、○：中、△：少、▲：微 を示す。

注2) 土壌水分は、水稲の生育収量に大きな影響を与えないと考えられる最低の土壌水分であり、この状態に達したのものについてはかん水する必要がある。

用水不足の水稲への影響と具体的な節水栽培法

生育段階	用水不足の影響	かん水の方法
田植期	活着不良や風害を受けやすくなります。水田に水がない場合、除草剤の効果が低減する可能性があります。	苗の葉先が必ず水面上にあるように管理しましょう。
活着期		
有効分げつ期	分げつが阻害され、穂数が減少します。しかし、畑状態の土壤水分(60%程度)であれば、影響は少ない。	朝、葉の先端から露が出ている状態で、田面は黒乾き程度。これを目安に浅水かん水又は走り水を行いましょ。う。
無効分げつ期	中干し時期に当たり、多少水分がなくても収量への影響は少ない。	ほ場の周りの稲が萎凋しはじめたら、走り水を行いましょ。う。
幼穂形成期	一穂粒数の減少や穎花の奇形を招きま す。	常時湛水の必要はありませんが、土壤水分は最低でも飽和状態が必要です。黒湿り状態で手で握れば土がだんご状となる程度を保つようにかん水しましょ。う。
穂ばらみ期	幼穂が急速に伸長する時期で、最も水不足の影響を受けやすい。花粉の形成ができなくなり、出穂しても一部は白穂となり大幅に減収する。	
出穂開花期	穂の抽出が妨げられて、出すくみになったり、開花や受精が妨げられて不稔になる。	
登熟期	出穂開花後 20 日頃までは粒が急速に発達する時期で、米粒の発育が劣り、粒重が軽くなり、くず米が多くなる。	前半は田面が黒湿り状態、後半は黒乾き状態の水分を保つように走り水を行いましょ。う。